

## 真光寺遺跡

（一財）長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター

# 地元現地説明会 資料

### 1 遺跡の概要

真光寺遺跡は、梓川右岸に形成された河岸段丘の2段目（森口面）に立地し、同面には上野遺跡、葦原遺跡、波田下島遺跡等の縄文時代、奈良時代、平安時代、中世の集落跡が分布します。さらに遺跡隣接地には8世紀の築造と推定され、大井郷の開発に携わった富豪層を葬ったと考えられる安塚古墳群、開削が中世にさかのぼり、調査区東側には「三溝」の地名の由来となった和田堰、神林堰、新村堰、調査区西側には弘治3（1557）年建立と伝わる真光寺が所在します。

松本市教育委員会による試掘調査では、「和田堰跡」と推定される溝跡、現存する真光寺以前の「真光寺跡」に関連する可能性が考えられる石列、穴跡、整地層が確認されています。

これまでの調査では、溝跡（用水跡）や土坑（穴）跡、古墳などの遺構が発見されています。

### 2 発見された溝跡

現在5条の溝跡が発見されています。溝跡（SD1）は古墳の周溝が埋没した後は南北方向に流れていたと考えられ、現在遺跡の東側を流れる和田堰の原形と考えられます。また同方向に流れる溝跡（SD2）が発見され、当地では同時期に機能していたと考えられます。古墳の周溝が埋没してから掘削されたようです。



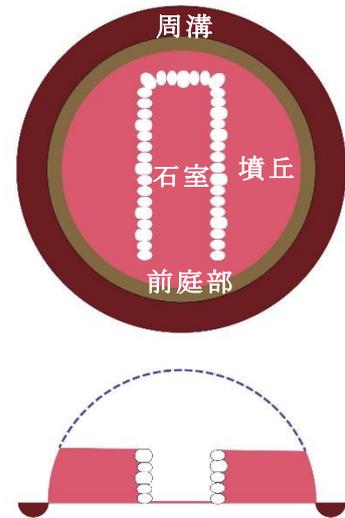
写真1 溝跡 中央（SD2）右（SD1）  
（南から）

### 3 発見された古墳

古墳（SM1）は墳丘および横穴式石室の上部が削平（破壊）された状況で発見されました。この古墳は、旧波田町内では初めて発見された古墳・石室となります。現状での規模は、石室の主軸（南北）方向で墳丘径約12m、周溝幅約1.5m～2m、（周溝を含めると主軸径15.5m）です。石室の全長は約7.5m、幅は



写真2 発見時の古墳墳丘と石室（南から）  
→石室埋没状況



上：平面図 下：断面図

図1 古墳模式図

奥壁で1.1m、入口部で1.85m、残存している高さは0.7mです。石室は梓川系の川原石を使用して構築されています。古墳からの出土遺物は、石室入口前庭部から須恵器の坏や蓋、小形長頸壺ほかが出土し、石室内からは須恵器の蓋、鉄鏃破片が出土しています。



写真3 古墳前庭部土器出土状況（南から）  
横穴式石室前から出土した土器（マツリ跡か）

近接する安塚古墳群や秋葉原古墳群を構成する古墳と類似した石室が構築されていました。

今後検討する必要がありますが、この古墳や安塚古墳群、秋葉原古墳群は、日本列島全域で古墳が築造されなくなった7世紀後半以降の時期に築造された非常に珍しい古墳の可能性も考えられます。

#### 4 発見された遺物

古墳関連遺物以外では、縄文時代中期後半（約4,500年前）の土器、縄文時代の石斧と石鏃などが出土しています。